

## 活動報告

# 農林水産省「消費者の部屋」でエコファーマー活動に関する展示を行いました

多くの来場者での賑わう室内(10月31日)



平成 23 年 10 月 31 日～11 月 4 日に消費者の部屋にて「環境保全に貢献するエコファーマー活動」の特別展示を行いました。お昼どきを中心に多くの方に来場いただき、初日の 10 月 31 日は昼 12 時から 17 時までの展示に 328 名、11 月 1～2 日は 10 時～17 時の展示に 2 日間で 439 名、最終日の 11 月 4 日は 10 時～13 時の展示に 129 名の来場者があり、4 日間の来場者数は 896 人となりました。

展示内容は、エコファーマーネットワークの紹介やエコファーマーの活動状況のパネル展示のほか、エコファーマーの作った農産物の展示、加工品の展示を行いました。また、生物多様性のコーナーとして

展示を行ったカイエビ<sup>注)</sup>には来場者の多くが関心を寄せていました。エコファーマーの方々は初日中心に参加され、活動状況のパネルや農産物の説明、試飲・試食等のお手伝いをいただきました(下記、11 月 1 日の日本農業新聞にも内容が掲載されました)。

来場者にはエコファーマーの作った農産物の試食・試飲、配布を行うとともに、アンケートも行いました。農産物やパンフレットの配布は、来場者本人だけでなく、家庭に持ち帰りいただき、家族・知人等とエコファーマーについて関心を深めていただける機会になったと思います。

なお、来場者からは「エコファーマーの安全・安心の取組と努力、苦労がわかった」、「自然と一体となった環境保全型農業の取組みが理解できた」、「エコファーマーの農産物から作った加工品がどこで買えるのか知りたい」など多数の意見が寄せられました。

農産物の展示状況



平成 23 年 11 月 1 日・日本農業新聞への掲載記事

「消費者の部屋」に出展した全国エコファーマーネットワークの会員(31日、東京・霞が関の農水省で)

全国エコファーマー展 農水省で初の開催

ミカン、小松菜などの農産物、加工品の他、田んぼで採取したカイエビなど生き物も展示している。4日まで。

知事の認定を受けたエコファーマーは、今年3月末で21万人と年々増えている。昨年は全国エコファーマーネットワークが結成され、各地で土づくりや減農薬技術の研修会を開き、交流を深めている。ネットワークの佐々木陽悦会長は「初めての展示で市民権を得るきっかけになる。会員を増やして消費者への理解も進めていきたい」と話した。

東京・霞が関の農水省「消費者の部屋」で31日、全国で環境保全型農業に取り組む農家からエコファーマー展がスタートした。肥料・農薬を減らして栽培した米、ミニトマト、

注) カイエビ: 水田で見られる二枚貝に似た小型の甲殻類。大きさは数ミリから 1cm 程度。